夕刊
磐城新聞
三月十七日發行
定價 一部 金五錢 一ヶ月 金六拾錢（郵稅拾五錢）
廣告料金（普通欄 金六拾錢 特別欄 金九拾錢）五行十二字詰一行一回（場所指定一行五拾錢增）
編輯印刷兼發行人 遠沼龍輔
福島縣石城郡平町田町十六番地
發行所 磐城新聞社
登錄受信略號（イイライワキ）
平局私書函第十二號 電話五六四番
（日曜祭日休刊）

超高速度の小說渉獵 六

赤井嶽男輯錄

『お江戶日本橋』

西池春之介作

（承　前）

店の表に送り出た浮船屋の總ての者は等しく廓から去り行く昨日の若紫――今日の美津江を心から見送つた。

盛名は無くとも純眞な心根を持つた志操の固い店中で評判のよかつた美津江だけに、人々の胸に印せられたものは淚ぐましい『哀傷』の氣持だつた。

高い黑い大門が今締られやうとして居た。

身一つ――背中に戶の締る音を聞いた柳四郞はホッとした疲れが出て來た。ひもじくなつて來た。

而しそれ以上に彼の氣持は張り切つて居た。美津江を龜井戶の竹之助の家に送る迄――どんなことがあつても――命にかけても送つてやらうと決心して。

と――突如背後から、ばた〱と駈て來る大勢の人の足音が……。

『その駕籠、待て』

柳四郞は止まらうとする駕籠をツと押やるやうにして。

『駕籠屋、かまはぬ、急いでくれ』

と强く叫んでから、くるりと向き返つた。

――御用提灯が！

かごは柳四郞の命令通り走り去つて行く。

『市ケ谷ッ！』

『柳四郞御用だ』

『おゝ來たなッ！』

彼は柄を叩いて猛虎の如くうそぶき猛り立つた。

呼子の笛が夜の緘默を破つてけたゝましく鳴りひびいた……。

かごが闇を縫ふて金龍山の方に走り去つたのを見澄ました柳四郞。

『河內屋半次の殺害犯人、御用だ』

と、十手を閃かせて飛び掛る手先――。

『應ッ』

と、殺氣に滿ちた文珠重貞が提灯ぐるみ、手先を眞ッ二つに斬り下げた。

と、風を切つて飛んで來たつた目潰しの雨。

『市ケ谷――』

『神妙にしろ』

浸み込むやうな痛擊が、忽目礫が、柳四郞の左眼にあたつて彼の手許に隙を生ぜしめた。

虛に附け込んで八方から捕掛る手先。

二日月（童謠詩）

山口正夫

夕燒け
ながれ
水ながれ
ねむの花
ねむる

二日月
淡い
水田の中に
ほそくなつて
きへた

芝　鳥

○

チ、チン
チ、チン
野茨がゆれる
チ、チン
チ・チン
陽がもうつる
チ、チン
チ、チン
鳥羞しやかへる
チ、チン
チ、チン
チ、チン
月が輪をかいた

3月17日

△インマヌエル、伊太利皇帝の位に卽く、伊太利統一の事成れるは帝の英明による事大である（紀一、八六一）△桓武天皇崩ず、御壽七十、雄才英武、都を平安に遷し坂上田村麿を征夷大將軍に任じ國政統一の大業を成す、平安朝千百年の制度文物上下有穆たり（大同五）△高山幸、鈴木德、人力車發明（明治三）△外人の我學校に入るを許す（同八）

一日一禪

○

春園桃李肉眼眩
秋水桂花幾醉嬰

拈華微笑

◇平の裁判所も來年は本卦還りだ一つお祝ひでもせねばなるまい

◇經濟科と云はず全科目の教授を廢したら生徒も大喜びだらう

◇これから持てる『堅牢無比』の警官

◇木炭や米の外に少年少女も中央市場送り

◇一鉢で何百圓。門外漢にはわか蘭はなし

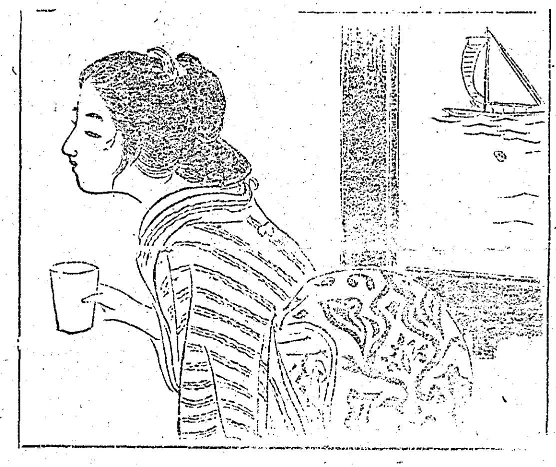
○……○

講談　元祿名妓伝

小邑井小巴演
（宮野恒彥畫）

第二十四席

宗一の言葉が荒ッぽいので、中坊主は呆れて、愈々顏を見てゐたが宗『別に棄てぼかした譯でもあるまいよ、娘さんの用で、使ひに行つたらしい……ダガ駕籠屋が出かける時に、誰か尋ねて來る奴があるか知れない、誰が來ても決して逢はして呉れてはならない早く浦賀へ知らせなくては、と云つて出た』宗『ナァー其雲助共に私が江戶から賴んで來たので、浦賀などへ行くには及ばねへのだ、何しろその娘に逢へば分る、早く連れが來たと言つて呉んな』×『マア待ちなさい今もいふ通り、無闇に取つぐ事はできない、其の娘さんは長老の日頃さんが、引受てゐなさるのだ、一應お長老の日頃さんに聞かない事には、私一存で彼是は計らへねへ、お長老は今の先フト外へ出掛けた、直に歸るだらう歸つたら話しをして……』宗一は的切りお房だとばかり思ふから、長老などが歸つては、却つて事面倒と宗『出たものゝ歸るを待つなんて、そんな氣樂なまねが、して居られるけへ、こんな大寺の癖に人の娘を隱まうなんて、途方とてつもねへ話しだ、第一寺に女は禁物ぢやねへか、長老なごは面倒くせへお前で分らざア住持の坊主に逢はふぢやねへか、住持も留守だゝア言はれめへ』水晶商人のづきんを半ばぬぎかけて、上がりがまちへ尻をまくつてドッサリ……中坊承知せず×『何を言はつしやる、當寺で女をかくまつた、途方もない出放題、あれは何でもお長老にゆかりのある人らしい、た住持さまは何も御存知ない、大きな聲など出したつて、それに驚く私ぢやない、お長老の歸るまで何と云はしやつても、逢はせることはならないよ！』宗『何をぬかしやアがる、此でこぼこ坊主め、誰が何と云つたからつて、俺が江戶から預つて來た女だ、連れて行かなくつて、何うするものか』うでまくりして土足の儘上がりがまちへ片足踏み掛けた、呆れてゐた中坊主も、默つて見てばかりゐない、大金火ばしを握つて立上り×『無作法千萬な奴だ、土足で大明寺をけがすとは、勘辨ならぬ』と前へ進んだとき、後のはゞ廣な杉戶を引あけて



○『アラ宗さん、お前何を騒いで居るのだへ、みつとも無いぢや無いか、坊さん勘辨してお呉んなさいよ』と立出たのは、年の頃十八九の仇めく美人 宗『ヤ、ツ、お前はおてるさん……』と流石の宗一もびつくりした樣子 照『オホヽヽ、ホお前が血まなこになつて、探す女とは、女が逢つて居るだらうが、此處で逢つたのは實に不思議だ、全く坊さん駕籠屋を賴んで、浦賀へやつたのは、此の人を尋ねる爲なのだつた、此の人の惡いのは幾重にも私があやまる、サア宗さん、草鞋をぬいで此方へお上がり』宗『イヤ早飛んだ事になつたなア〃さん惡かつた、勘忍してお呉んなせへ』×『ナァーニ私はでくぼく坊主だから！』宗『マ、然う云はないで、下駄とたらひを一つ貸してね』×『下駄は其處にある、たらひは外にかけてある』宗『井戶はドコだらう』×『うらへ出て眼をあいて見なさい』と飽迄佛頂づら 宗『何てへ、屁間を突いたんだらう、石和の宗一も毫なしだ』ロ小言を云ひ乍ら、下駄をさげたらひを持つて橫手に立出で、井戶ばたで草鞋をぬぎ足を洗ひ宗『おてるは實に不思議な女だ、血まなこで探す女とは、女が逢ふだらうと言やがつた、シテ見るとあの事を知つて居るかも知れない油斷もすきも出來はしねえ！』宗一自身が不思議な女だと云ふ、抑々此のおてるとは如何なる素性のものであらうか……暫くして宗一は、おてるの居る座敷へ通る 宗『どうしたんだおてるさん……』照『私の方よりお前がどうしたんだよ、ダガ油を取るのは後として、一つ息つぎを上げよう』土びんの中には茶と見せ掛て酒が入つてゐる。

ラヂオ

仙臺 JOHK ……十八日（水曜）……

△前七、〇〇 七、三〇B ラヂオ體操
△九、〇〇A 氣象通報
△九、〇五 經濟市況
△九、一〇 ローカル 料理獻立（エンメー豆腐）佐藤三樸發表 日用品値段
△九、三〇 一〇、二〇A 經濟市況
△一〇、三〇 一一、〇〇 ローカル 佛敎講座（大日經第七卷）大正大學敎授神林隆淨
△一一、〇〇A 經濟市況
△正午 時報
△後〇、〇五 〇、四〇A 新日本音樂等 二重奏 箏三重奏 管絃合奏
△〇、四〇A 全國ニユース 氣象通報 告知事項
△一、〇〇 一、五〇A 經濟市況
△二、〇〇 二、三〇A 家庭大學講座（女性のための哲學）『第八講』（中世紀の哲學）日本大學敎授松原寬
△二、三〇 經濟市況
△三、四〇 氣象通報
△三、五〇 經濟市況
△四、〇〇A 全國ニユース
△四、一〇 六、〇〇B 角力中繼（京都大角力六日目）京都角力場より中繼
△五、三〇A 經濟市況
△五、四五 今晩の番組豫告は右角力中繼を中斷して放送す
△六、〇〇 六、三〇A （子供の時間）獨唱…黑澤貞子 ヴアイオリン獨奏…由三郞
△六、三〇 七、〇〇A 英語講座（初等科二二）綱倉荒木幹枝
△七、〇〇A 全國ニユース（官廳ニユースを含む）ニユース 氣象通報 告知事項 番組豫告
△七、二五 八、〇〇A ピアノ獨奏 レオニドコハンスキー
△八、〇〇 八、三〇A 尺八（鶴の巣籠）尺八荒木古童
△八、三〇 九、〇〇A 講談（秋色櫻）一龍齋貞山
△九、〇〇 九、三八A 名作物語（ジャンヌダルク）生駒雷遊
△九、三八A 時報 全國ニユース 氣象通報 番組豫告 告知事項

一圓十錢のフランス
マルソー會社元詰
マルソー、ブランク
マルソー、ルージ
生葡萄酒
優良にして安價賣行き飛ぶが如し
平二 西村屋藥店 おはなし三番

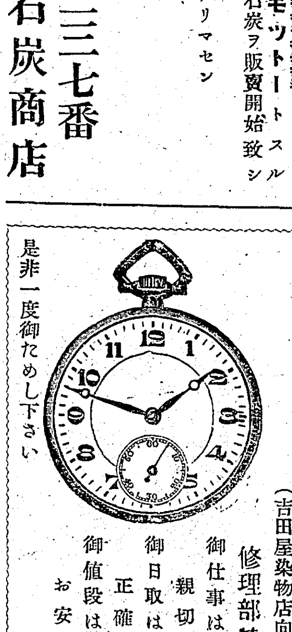
ヨウ
モーダン！
斷然三一年型だナ
ドコの新調だい
コレハレイの
ノレ 正札堂さ
品は豊富で撰取り見取り
時代をリードするこのスタイル

◎レコード破りの
石炭大廉賣!!!
（磐城炭礦二等炭）
正味十貫目一俵 金卅錢也
◆品ガ良ク『値ハ安ク』ヲモットートスル當店ハ此度超破格ノ格安石炭ヲ販賣開始致シマス
◆値ガ安クトモ品ハ惡クハアリマセン
◎配達ハ一俵ヨリ致シマス
御注文は ―電話二三七番―
平驛前 阿部石炭商店

吉田眼科病院
平町紺屋町

度量衡計量器
吸入用酸素
酸素吸入器
關內藥局
電話四〇番

夜間診療
胃腸　梅毒
內科　十二指腸虫病　專門
淋病　皮膚病　婦人病　專門
內科部　外科部
松村胃腸性病科醫院
（平南町電話一〇七番）



時計の御用命は
山崎時計專門店に
平町五丁目新川町通り
（吉田屋染物店向）
修理部特長
御仕事は親切に
御日取は正確に
御値段はお安く
是非一度御ためし下さい

專門 一般內科
內科ハ何デモ診療致シマス
呼吸器病バカリデハアリマセン
平町南町六五（電話一八一番）
川井內科診療所
醫學士 川井重之
女醫 川井安子

笠間稻荷神社參拜
團体募集
△期日（昭和六年三月廿六日（舊二月八日）午前五時南町丸ホール集合 同日正六時出發）
△道程（自動車往復 笠間神社參拜祈禱 歸途磯濱大洗神社 明治記念館拜觀 魚來庵ニテ中食 村松山虛空藏尊參詣、同日歸平解散）
△會費（金四圓卅錢也（卽納ノ事））
△申込日（三月廿日迄トス）
平南工園 笠間神社參詣團体申込所 電話四二九
後援 いはらき新聞平支局

司直の關鍵を握つて 開廳茲に六十年
他の縮少を尻目に 儼存する平町の裁判所沿革

◇現内閣の囚はれたる緊縮節約によつて萬一支部縮少だの事務停止だのと困つた事になりはせぬかと地方民の氣を採ませた裁判所の問題も平は幸ひ槍玉に上げられずに事濟みとなつた事は誠に御同慶に堪えざる處であるがこの機會に於て一つ平區裁判の生ひ立ちなるものに就て一席伺はう

◇抑々の始まりは明治五年（その年に生れた人は丁度今年六十になる）の八月磐前縣廳内に之れを置いたが一年にして同縣廳が廢されたので本所は獨立して田町（今の水道部）へ廳舍を新築した。十三年七月治罪法を制定し違警罪裁判所を區裁判所に置き輕罪裁判所を地方裁判所内に置く樣になつた

◇その廳舍が十七年の四月に燒けて新廳舍で事務を開始したのが十九年の二月。廿三年裁判所構成法が實施され平區裁判所と改稱した（此間當區裁判所から治安裁判所となり始審裁判所となり福島始審裁判所平支廳を併置した）同年福島地方の支部を併置し甲號事務を取扱ふに至つた

◇三十一年六月戸籍法實施により戸籍の監督を郡役所から移した、大正元年に至り平郡鐵道の工事開始するや愈々場所がうまくないとあつて現在の八幡小路に移轉し二年三月三十一日から事務を開始した、爾來福島地方の甲號支部を兼ね石双二郡の全部と田村の一部を管轄區域として居る

◇開廳以來歷代の所長監督判事は

味岡禮質、鹿兒島直、梅澤勝之、大森哲介、前田信兆、平野直治、應野銳太郎、堀合卓〻、大森哲介、高宮尚二、内藤諒太郎、中島常松、黑田文八郎、臼井武松、千葉公贇中島十藏諸氏

警官全部に對して 嚴密な健康調査
陶汰を斷行して
專心能率增進を圖る

日夜保安維持の劇職に當つてゐる警察官の健康狀態如何は直に勤務能率に至大の關係あるので縣警察部では本縣最初の試みとして警官の榮養と健康診斷を行ふことになり今十七日平署に通達あつたのでその準備中であるが之の診斷は三十日頃執行の豫定で縣衛生枝師衛生課員が出張し身長體重其他從來のありふれた形式一片の檢査を廢し既往の疾患その他を綿密に檢査し更に榮養不良疾病の原因を調査し一々對症醫療を行ふは勿論執務上の施設改善等を行ふがその結果全治の見込なき者に限り已むを得ず退職させ一意能率增進を圖ることゝなつたが檢査條項は疾患呼吸器、循環器、消化器泌尿器、神經、五感の各系統に就て詳密なる調査を遂げ他に[illegible]すべき病氣に就ては之を極秘に附する筈であると

公園内の賣店敷地
場所價格決定 抽籤は廿三日

平町役場では例年の通り花の期間中公園内の臨時賣店敷地を貸與する事となつたが申込は二十日迄で價格は從前通り一等地常磐附近四ヶ所第二公園一ヶ所一口二十三圓二等地池の端五ヶ所一口十七圓三等地第一公園臺上十二圓で抽籤は二十三日役場會議室で執行する由

時局批判大演說會
廿日聚樂館で

磐城經濟新報社主催の時局批判演說會は二十日午後九時より平町聚樂館で開催されるが辯士は勞農黨現水戸市會議員辯護士額賀二郎、全國大衆黨高橋忠弘、社民黨松本淸之丞、全國農民組合星野次郎、山代國子、（山代吉宗の母）自由法曹團辯護士布施辰治無産黨大井川幸隆の七氏外數名出席する由

平商業學校でも 經濟科教授廢止
周圍の事情に鑑みて平 新學期から實行

最近農民運動及び勞動運働が盛んとなり各所に暴動化した爭議が勃發し思想方面がとみに險惡となつて來たが一般人のみならず學生もや〻もすれば社會主義的思想に染まり實際運動に入るものが頻出する有樣なのでこの裏には中等學校に於ける經濟科の影響が大きいと云ふ理由で本年四月から一齊に商業學校の經濟科を廢止し（經濟原論商工政策財政を含む）新たに公民科を設置して經濟學のアウトラインを講義する事になつたがそれと同樣の理由かあらぬか平商業學校でも來月の新學期から經濟科の教授を廢止すると

少年少女の住み口を 東京方面で開拓
地元では到底見込無く あす紹介所員が上京

平町地方に於ける少年少女の求職希望に對しては過般來町の職業紹介所が銳意住み口の開拓に努力し來つたが時節柄その希望を充たし得る程度の求人なく現在の求職者は男百廿七名女二十名合計百四十七名の多數を算するに拘らず求人數は東京方面二十名地元男四十五名女十名で約その半數に過ぎざるのみならず求職の多くが技術方面會社關係等なるに反し求人の方は店員女中等その大部分を占め双方の希望が一致してその決定を見たるは今の處僅に求人數の半數に過ぎず今や地元に於ては殆ど開拓の餘地無き狀態となつたので四家紹介所主任は明十八日上京先づ中央事務局との聯絡をとり各紹介所とも氣脈を通じ極力この方面に於て就職口の開拓に從事する事となつた

佑賢卒業生
廿日授與式

磐城佑賢學舍第十八回卒業證書授與式は二十日午前九時から擧行されるが卒業生は左記の如く本科十九名普通科五十二名合計七十一名である

（五十音順）

（本科）鵜沼繁雄、大和田守、岡部尚、草野高保國井克昌、小松壽、佐藤美也司、鈴木進一、中野五郎、永山五郎、箱崎三弘、蛭田淸、渡邊喜一、叶田ミヨ、木田ャヤ、小林セキ子、關本トヨ子、馬淵トシエ、松田ミツ子（普通科）阿部弘、阿部德治、愛川登喜男、青木惺、秋山辰夫、秋元且吉磯土德一、猪狩卯平治、遠藤勝平、伊藤兵哉、大谷淸、大谷正秀、金成春治、木村壽松、木村政雄木田包房、倉島勝男、後藤義信、佐藤公雄、坂本半吾、坂本正、篠崎景孝鹽幡久之、志賀五郎、鈴木春好、鈴木正、鈴木一良、須藤貞雄、伊達得志高橋光文、高橋惣吾、鳥海嘉一、戸板正三、西山悟、新妻義武、根本義民萩利光、比佐正平、增田幸太郎、馬目正二、松本義雄、宮川四郎、三谷通康、宮本逹雄、水竹光、村田藤市、森山一、四倉實、渡邊重、渡邊秀雄、渡邊正三、鵜沼正行

磐城高女受賞者
優等と四ヶ年皆勤
卅十八日證書授與式

縣立磐城高等女學校第十九回卒業證書授與式は既報の通り明十八日擧行さるるが卒業生百九十名中優等生及四ヶ年皆勤者氏名次の如し

（優等生）勿來町關田北作安島つや、埼玉縣北埼玉郡（四倉）屋美晴子、平町新川町木村ふみ子、湯本町三函鯨岡孝子、平町櫻町千葉ふみ子、相馬郡太田村（好間）和田しづ子（皆勤者）遠藤きよ子、大原あや、落合きみ、片寄よし子、木村くに子、小林歌子、佐竹富美子、佐藤つや子、鈴木喜代子鈴木大、鈴木千代子、大樂しま子、高瀨たに、高野美知、千葉ふみ子、新妻喜美、平口節子、星たみ子、本多喜美子、松崎はつね、三森みよ、村上まさ、柳井文子、矢内美穗、矢部松、吉江ゆきゑ

ロロロロロ ピッツバーグから

米國に來たら迚も忙しい氣持ちがする、愚圖々々してゐると突き飛ばされそうだ、ニューヨークからボストン、トロント、ナイアガラ、バッハロウ、デトロイトを經昨夜シカゴから當地に來てこんな高いホテルの二十五階の天邊に泊められてゐる當地は米國の心臟だ石炭あり鐵あり石油あり交通運輸至便小生の見學も此地が主眼だ緩つくり落ちついて勉強する

吉本眞一

逢沼兄

家屋賃貸價格調査町村
縣下二十三ヶ所の内 石城では四町二ヶ村

本縣各市町村中昭和五年度の家屋賃貸價格調查をなすべき市町村は今回二十三ヶ市町村と決定、これが第一次家屋稅調查委員會議は來る二十一日一齊に招集されることになつた、會議事項は、家屋に對する五年度の賃貸價格の調查である、石城郡下の分次の如し

平、湯本、小名濱、植田豐間、內鄕

石城の父兄に

投喩 寄書歡迎

縣下十八の中學校高等女學校の內募集の定員に滿たないのが六校もあり超過しても十人か二十人に過ぎぬのが之亦四校もあるのに磐中と高女は何れも百名以上も篩ひ落されるわけで相變らず縣下第一の受驗難であります

◇

慈歷處から一敎員として當然考へねばならなかつた問題は如何にせば受驗兒童の負擔を幾分でも輕くする事が出來る平で研究の結果或る專門家によつて次の樣な事を知り得ました、心配を同じうする各家庭の御參考に供します、試驗勉強に學生の最も要求するところのものは、安價で時間を費すことが少くて、而して勉强をするのに、最も有効の方法であります、それには種々な食養法が唱へられ、合理的食養法も大切には相違ありませんが一般學生の樣な、未だ年若く身體が寧ろ成長中にあるものは普通の食物でありさへすれば何を喰べても生理的影響が大人や老人に比して割合に少いもので寧ろ他の方法に依り勉强能力を促進することが必要です

◇

その最も有效なる方法に入浴があります、しかも入浴を日に三度位行ふことを勸めたい斯かる頻繁の入浴は種々疲勞を來たし所謂湯ざめを感じ一寸不良の結果を來す樣ですが、普通の健康體にありては慣るるに從ひ一般健康增進上にも非常によい結果を齎すのです、入浴が血行を促し、食慾を增進し、體內老廢物質を排除する等の効あることは、何人も知ることですが特に試驗勉强などを過度に爲す學生には、生理的の効果が多いのです

◇

方法はたゞそれ丈けです御實行をお勸めいたします

（石城の一敎員）

銀行組合會

石城郡銀行組合では今十七日午後五時から平平磐城實業銀行に於て協議會を開催

以前平にゐた 藝妓と家出
實父から搜索願

東京小石川區高田老松町二六新次郎長男鈴木米藏（三二）と同日本橋區蠣殼町三町目一三藝妓屋琴の家方抱え初野事山田艶子（三三）は五日午前十一時頃無斷家出行方を晦ましたが艶子は元平町にゐた事あるので或は平町內の知人宅にでも潛伏してゐるのではないかと今十七日男の實父新次郎から平署へ搜索方を願ひ出た

中野刀自長逝
今十七日葬儀

神谷村中野惣吉氏母堂モン刀自は過般來病氣靜養中の處藥石効無く去る十四日夜長逝した刀自は稀に見る溫良恭儉の女性で郷人等しく其他界を惜しんでゐる、行年七十二歲葬儀は今十七日午後二時神谷村鹽の自宅出棺同村金臺寺に於て佛式により執行したが故人の生前に於ける德望の反映として弔問者非常に多く盛葬であつた

小兒轢かる

飯野村大字谷川瀨農山野邊利之長男幸一（五ッ）は昨十六日午後二時四十分頃道路で遊戲中平、江名濱間自動車運轉手加賀藏之助（三）に轢かれ卽死したと

金に糸目をつけず 珍種蒐集を競ふ
陳列會の取引二千圓
盛んな地方の春蘭熱

石城地方に於ける春蘭及蕙年靑熱は平町一丁目坂本隆藏氏其他鐵道方面の同好者間等に於て著しく勃興し中には一鉢百圓以上の珍種を所有する向もある位でその結果最近では小川附近に於ては盛に之の採集が行はれ野生のものにして尙ほ一株二三十圓の逸品さへ發見された事あるなど益々愛玩熱が高まりつつある折柄平町在住一部同好者發起の春蘭萬年靑陳列研究會を一昨十五日共濟病院前藤田屋旅館に於て開催した處縣下は勿論遠く山形、栃木、茨城、新潟等の各方面から多數の同好者が參會し當日の取引は實に二千餘圓に達する盛況であつた、因に本縣に於ける春蘭の葉變り種は新潟長野地方と共に全國中七八分の勢力を有し一昨年來同好者の續出と共に大に前途を囑目されてゐる

明日の吉凶

舊曆三月一日　新曆三月十八日

▲一白の人　利口ぶりて人の信用を失ひやすく排斥せらる▲二黑の人　沈着なる時は次第に成功の域に達し得べし▲三碧の人　進退共に氣の許せぬ日外にありて殊に然り▲四綠の人　忠言耳にいらず獨斷失敗を繰返しやすき日▲五黃の人　常業には吉なれども新計劃は危險を伴ふべし▲六白の人　まよひまよひて元氣を損す働くにまさる事なし▲七赤の人　傾きかけし運氣も次第に立直り行くべき日▲八白の人　進退ともに自由なる日但辯舌は注意あれ▲九紫の人　猛威をふるふ時は意外の失敗をまねく事あり

赤井嵐

◇別に産兒制限に反對して實際運動を起した譯でもあるまいが、何時の間にかコンナになつちやつたのさ、訣に隱せぬ腹を撫でゝたのが○△（人氣商賣故特に名を秘す）でござる◇地球はめぐる腹はセり出す、滿十ケ月に達し元利合計をスッカリ返濟してア、淸々した、今度復興工事も出來たからまただうぞごひいきに……』◇もうコリしたといふので、お客の顏を見ると產兒制限座談會を開いて、體驗による制限論を吐いてる、此講師實地指導もやるから仲々流行つてる……!。

平町人事

△出生

三丁目二二馮具商小鍛冶永助長女芙美

双葉郡廣野村大字北迫字西町三六長橋町四七猪狩勇次郎五男五郎

古鍛冶町一二材木商大野力二二女勝子

三丁目一栃木縣芳賀郡茂木町大字茂木一六四四大﨑チカ長男利彥

△婚姻

大工町一五新潟縣中蒲原郡橋田村大字丸田戌三一淸野トシ（五七）本籍不明穴戶德次郎（五四）

鎌田町三四農鈴木伊太郎（四五）新潟縣中蒲原郡橋田村大字丸田戌三一淸野カツ（二〇）

▲死亡

白銀町一四佐藤初太郎（六四）

杉平二〇鹿島村大字下藏持字宮の作一一志賀丈吉（六二）

白銀町一三伊達郡大久保字古屋七菅野喜美（三三）

紺屋町三七草野淸五（三二）

市原病院

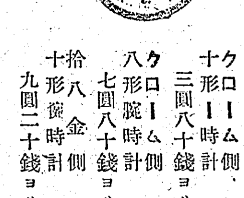
內臟外科
外科一般
花柳病科
入院隨意　自炊の便あり
平町田町赤心堂病院跡（電話四三六番）
安齊外科醫院
看護婦募集

特賣!!!
たひら正宗　福島縣清酒品評會一等受領
花春　同優等賞受領
醬油釀元造
鹽屋　山崎合名會社（電話一〇番）

入院隨意（自炊の便あり）
X光線科
外科專門
平南町
上田醫院
病室完備（電話一二九）

文部大臣認可
平陽女學校入學案內
募集人員
本科　二ヶ年卒業　五十名
師範科　二ヶ年卒業　五十名
技藝高等科　二ヶ年卒業　五十名
仝速成科　一ヶ年卒業　三十名
仝專攻科　一ヶ年卒業　二十名
右各科共入學ヲ許シマス希望者ハ入學願書ニ履歷書ヲ添ヘ三月末日迄ニ本校宛提出シテ下サイ
入學願書ハ本校宛申越下サレバ差上マス
福島縣平町
平陽女學校
電話四四五番

內科・小兒科
花柳病科
入院應需
平町紺屋町
藤沼醫院
電話平長五〇七番

時計の御用命は

皆樣の
常盤屋時計店
平町一丁目電話三三九番
大特賣品
クローム側　十形一時計　三圓八十錢ヨリ
クローム側　八形腕時計　七圓八十錢ヨリ
拾八金側　十形腕時計　九圓二十錢ヨリ